事業価値の示し方

セキュリティに関するレポートのジレンマ

目次

従来の測定基準は、セキュリティに関する戦略的な意思決定の役には立たない 4
事業に関する最も価値のあるレポートは詳細な情報を提供する 4
価値の基盤 5
Xtraction は SCCM のレポートの価値拡大に役立つ 5

This document is provided strictly as a guide. No guarantees can be provided or expected. This document contains the confidential information and/or proprietary property of Ivanti, Inc. and its affiliates (referred to collectively as “Ivanti”), and may not be disclosed or copied without prior written consent of Ivanti.

Ivanti retains the right to make changes to this document or related product specifications and descriptions, at any time, without notice. Ivanti makes no warranty for the use of this document and assumes no responsibility for any errors that can appear in the document nor does it make a commitment to update the information contained herein. For the most current product information, please visit www.Ivanti.com.

価値を示すことに関する圧力が高まっています

昨今 IT 事業部門は、大きな課題を抱えています。IT 事業部門は、自分たちが企業にもたらす価値を評価できず、セキュリティやコンプライアンスレベルに関する透明性を示す測定基準を明確にできないのです。

多くの企業が業務上のセキュリティパフォーマンスを測定する効果的かつ静的なソリューションを導入していますが、セキュリティに関する取り組みが果たして事業戦略と一致しているのかを示すことや、これらの取り組みの価値を最大限に発揮させることに集中できていない企業がほとんどです。

40%

取締役会にすぐに使用できる情報を提供している企業の割合

Bay Dynamicsのレポートにより、「取締役会に提供する情報はすぐに利用できる情報である」と回答した回答者がわずか40%であったことが明らかとなっています。1

技術管理組織の

eighty-five percent

が価値を実際に示すプレッシャーを認めています

Forrester Researchの調査では、技術管理組織の85%が価値を実際に示すプレッシャーを認めていることが明らかとなっています。2

CIOの業績は企業に対するITの価値を評価する重要な指標です

そのようなプレッシャーは無視できません。Society for Information Managementの調査では、CIOの業績を評価する最も一般的な指標が企業に対するITの価値であることが明らかとなっています。3

従来の測定基準は、セキュリティに関する戦略的な意思決定の役には立たない

従来の測定基準やレポートでは、ソフトウェアアップデートに関する情報など、Microsoft 社の SCCM によって提供される高水準な情報が重視されています。ただし、これらの測定基準からは、ソフトウェアのアップデートで行われている取り組みに関する詳細な情報や透明性は提供されません。利害関係者が重要な時点を特定し、それらの関係性を見出すことを可能にするのは、リアルタイムのパッチレベルや、影響が及ぶビジネスアプリケーションなどに関する情報なのです。そのように状況を正確に把握することで、脆弱性への対応を改善し、企業のクリティカルなリスクにセキュリティが重点的に適用されていることを示すことができます。対照的に、従来の測定基準は、経営陣が戦略的な判断を下す際に使用する数値ではありません。

経営陣は判断材料として Microsoft 社の SCCM のレポートを使用しています。ただし、SCCM のレポートだけでは、脆弱性や現在のコンプライアンスと照らし合わせて企業がリスクを評価する場合や、企業がさらなる戦略を推進する場合にセキュリティチームがどのようなサポートを提供できるのかがわかりません。

例えば、一般的な Microsoft 社の SCCM のレポートでは、必要なソフトウェアアップデートの数が示されることがありますが、経営陣にとって、この数字が企業に与える影響を理解することは難しいのです。必要なソフトウェアアップデートをベンダーが公開するタイミングや、アップデート後にどれだけ速やかに対応できるのかといった情報を示すことにより、経営陣は企業への影響やセキュリティのリスクを理解でき、セキュリティに関して事実に基づいた適切な判断を下すことができるようになります。

また、Microsoft 社の SCCM のレポートの取得には、SCCM のデータベースや SQL レポーティングサービスに関する知識が求められます。つまり、速やかに対応するために、データにアクセスし、レポートを簡易化することは難しいことなのです。

事業に関する最も価値のあるレポートは詳細な情報を提供する

ダッシュボードとレポートは、企業を保護する上で欠かせない役割を担っています。しかしながら、効率化を図るためには、リスクと予期せぬ支出を軽減するため企業の様々な利害関係者が求める結果と優先事項を理解する必要があります。最も価値のあるセキュリティに関するレポートとは、リスク評価の精度を向上するレポートです。例えば、クリティカルな脆弱性にパッチを適用するために必要な時間や、パッチ適用が事業にどのような影響を与えるのかを示すレポートです。価値を示すダッシュボードとは、改善を推進するためのエリアを示すものです。

このようなレポートやダッシュボードは、CIO、CSO、CEO などデータを利用する各経営陣にとって何が重要なのかを伝えてくれます。

事業価値ダッシュボード

ITセキュリティのパフォーマンスと測定を結果と結びつける価値ベースのアプローチを導入すべき時を迎えています。そうすることで初めて業務を重視した方法で情報を明らかにし価値を付加できます。ガートナー社はこの価値ベースのビューを事業価値ダッシュボードと再定義しています。[4]

セキュリティに関するデータを手作業で時間をかけて分析することを止め、個別のシステムやツールでは簡単にできない方法で、従来の測定基準をダッシュボードに集約するレポートツールを使用しましょう。ダッシュボードでは、基本的なセキュリティに関する測定基準と共に企業への影響に関する情報が提供されます。ダッシュボードでは簡単にデータを絞り込むことができます。このため、セキュリティ管理者だけでなく、CFO など誰でも結果を徹底的に調べ、現代の速やかな対応が求められる業務において速やかな判断を下すことができます。IT セキュリティチームは、経営判断を下す経営陣と効率的にコミュニケーションをとり、企業との関係を維持できるようになります。

IDCの調査で、データ評価プロセスを導入している企業の70%以上が主にデータを手作業で収集、分析していることが明らかとなっています。

価値の基盤

関連のあるデータを簡単かつ速やかに理解し、それに対応することを可能にするタイムリーなダッシュボードの価値は、どれだけ誇張してもし過ぎることはありません。直感的かつわかりやすく視覚化されたこれらのダッシュボードでは、以下の情報を速やかに把握できます。

- 現在のセキュリティの状態
- 目標に向け順調に進んでいるか
- 正しい方向性で進んでいくために必要な変更や微調整

セキュリティ事業部門のユーザーや企業ユーザーを対象とした価値ベースのダッシュボードとレポートは、セキュリティに関わる現代の企業や事業部門に必要不可欠です。価値ベースのダッシュボードとレポートは、事業効率を後押しし、事業戦略を円滑化し、セキュリティプロセスを最適化し、動向をモニタリングし、速やかに新たな事業機会やリスクを特定します。これらのビジネス向けのダッシュボードは、意思決定の速度と精度を向上し、企業のための価値や効率を示し、改善する基盤を形成します。

Xtraction は SCCM のレポートの価値拡大に役立つ

Xtraction の SCCM コネクタは、企業に価値を示すための取り組みをサポートします。Xtraction は、独自のレポートインターフェースを使用する複数のベンダーのツールや複数の企業アプリケーションからのデータを瞬時に単一の統合化されたビジネスビューに集約する優れたソリューションです。企業のシステムからデータをまとめ、表示できるため、セキュリティ管理や IT サービス管理、IT 資産管理、顧客管理などにデータを活用できます。日常業務のレポートを作成するか、もしくは、事業価値ダッシュボードにデータを集約し、セキュリティアナリストが要求するより複雑なニーズに的を絞るためにデータを掘り下げて確認することが可能となります。

「2020 年までに、インフラストラクチャ＆運用（I&O）事業部門の 50%以上が、事業価値ダッシュボード（BVD）を導入することが見込まれています。これは、現在の導入率が 10%未満であることを考慮すると、大幅な増加となります」

— ガートナー社

www.ivanti.co.jp

03-5226-5960

Contact-Japan@ivanti.com

Copyright © 2017 Ivanti. All rights reserved IVI-1656 05/17 MK/BB-MD/DH/D

1 Bay Dynamics " Reporting to the Board" http://baydynamics.com/content/uploads/2016/02/Reporting-to-the-Board-Where-CISOs-and-the-Board-are-Missing-the-Mark1.pdf 2 David K Johnson, Eveline Oehrlich, and Elinor Klavens, Forrester Research, "ITSM Falls Short of Your 2016 Needs."
3 BusinessWire."SocietyforInformationManagement(SIM)2016ITTrendsStudyRevealsMajorShiftinFocusofITExecutives."
4 Gartner. "IT Glossary." Accessed January 19, 2016. http://www.gartner.com/it-glossary/dashboard

5 Sarah K. White, "Digital Transformation Will Shape 2016," CIO, November 30, 2015. Accessed January 19, 2016. http://www.cio.com/article/3009670/it-strategy/digital-transformation-will-shape-2016. html#slide4) 6 Gary Spivak and Robert Naegle, Market Guide for I&O Business Value Dashboards, Gartner, May 2015. Accessed January 19, 2016. https://www.gartner.com/doc/3059017/market-guide-io-business-value)